

天竜区緑恵台土砂崩落に係る第三者による技術的検証会（第1回）概要

1. 災害の概要

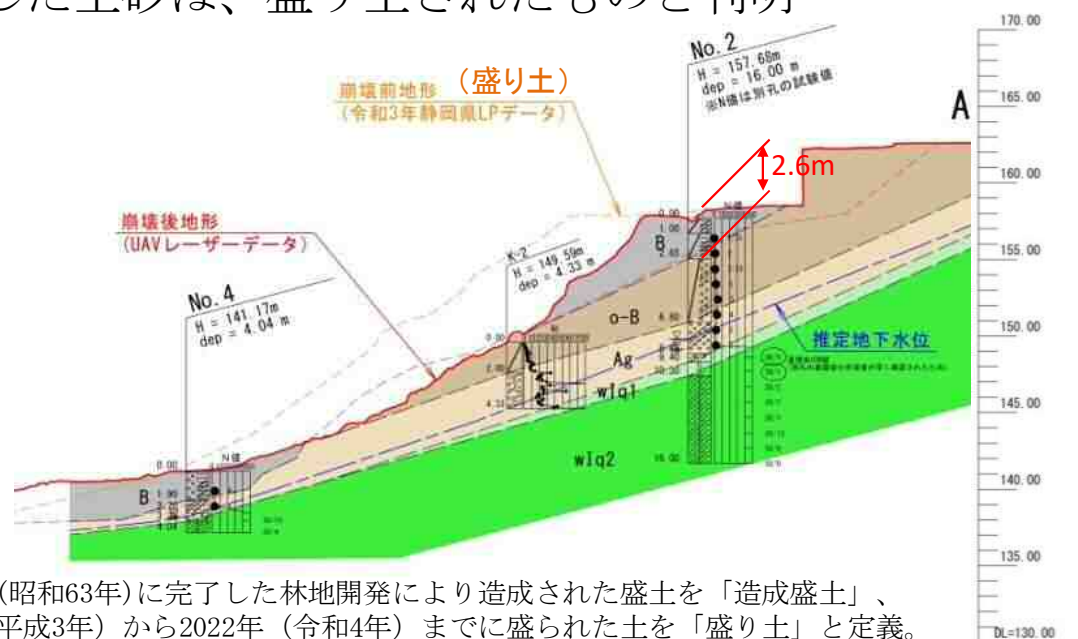
- ①台風第15号の影響により9月24日未明、土砂崩れが発生し、住宅3軒が巻き込まれ、住民3人が負傷
- ②時間最大雨量60mm/h、累積雨量292mmを観測

盛り土量	8,100m ³	残存土量	4,700m ³
崩落土量	3,400m ³		



2. 地質調査結果

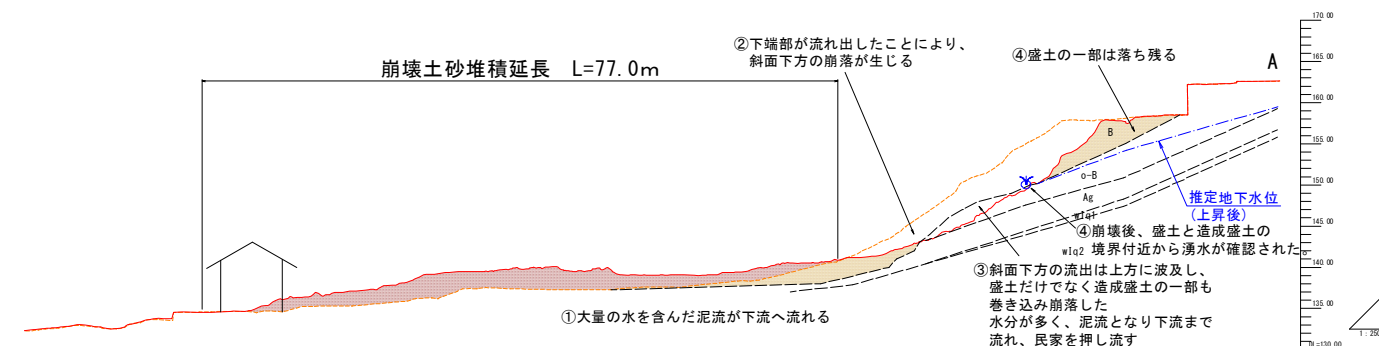
- ・地質調査は、盛り土の層厚把握と土質確認を目的として、斜面上部で3箇所、下部で1箇所の計4箇所を実施
- ・盛り土と造成盛土の境界が判明、盛土は2.6～3.2mの厚さがありシミュレーション結果と概ね一致
- ・崩落した土砂は、盛り土されたものと判明



※1988年(昭和63年)に完了した林地開発により造成された盛土を「造成盛土」、1991年(平成3年)から2022年(令和4年)までに盛られた土を「盛り土」と定義。

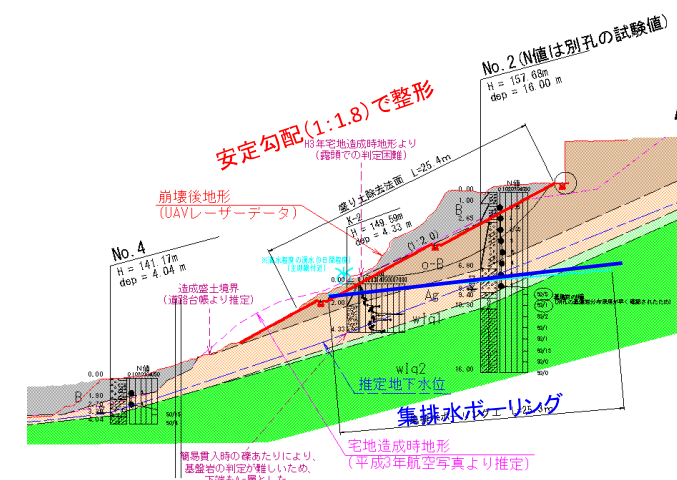
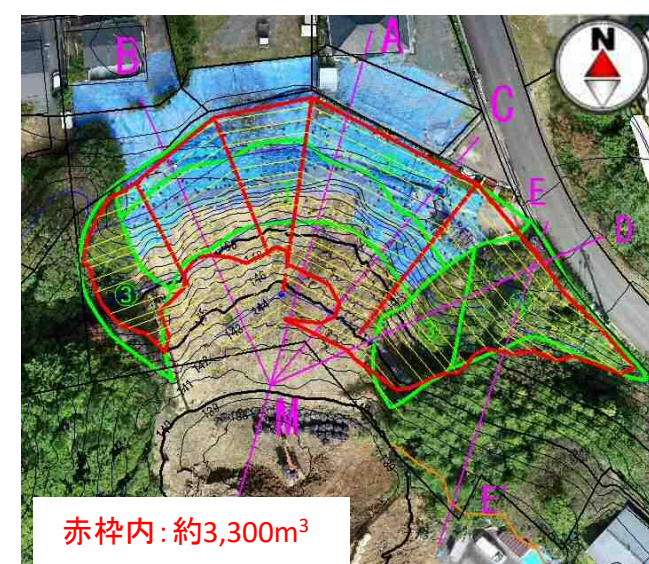
3. 災害発生メカニズム

- ①盛り土は盛りこぼされており、空隙が多く、水を吸収・貯留しやすい状態であり、排水施設もなかったものと推定
- ②台風第15号の大雨により盛り土内の地下水位が上昇、盛り土土塊重量が増加
- ③斜面下方で小規模崩落や土砂流出が発生、段階的に斜面上方へ崩落が波及
- ④斜面上部が崩落、大量の水を含んだ泥流が流出し家屋を破壊



4. 残存盛り土対策

- ・地質調査等の結果、約3,300m³の盛り土の撤去が必要
- ・安定勾配で法面整形し、排水施設を設置予定
- ※対策は災害対策基本法に基づき実施



5. 今後の予定

- ・残存盛り土対策の詳細については、第2回で検証予定